

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100763		
法人名	株式会社春風会		
事業所名(ユニット名)	春風会さしグループホーム	1Fユニット	
所在地	和歌山市栄谷460番1		
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果市町村受理日	平成28年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の南側には、広い庭を併設しており、季節の草花や、旬の野菜の収穫や散歩を楽しんで頂けるような工夫をしています。庭を利用し開催する年に一度のBBQ大会も大勢のご家族に参加頂いています。お食事は、家庭的な内容を大切にしながら、食べやすさと美しさを盛り込んだ自慢の内容となっています。訪れたご家族も時には、一緒に召し上がられて美味しいとの好評を頂いています。建物内の足湯コーナーは、入居者の方々はもとより、ご近所の方にも開放する日を設け楽しんで頂いています。季節折々の内容を盛り込んだイベントも、併設の通所介護と合同で行うことで、日頃から双方の交流があり、楽しまれています。ご家族やご友人の訪問も多く、居心地の良い空間を提供できるよう、職員は常にご自宅にお客様をお招きするような心を持ってお迎えするように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな環境に囲まれた住宅地に立地し、コンビニや郵便局、寺院等も近くにあり、入居者が安心して生活できる場となっている。管理者・職員はホームや法人の理念のもと、個人を尊重し、最期まで本人らしく暮らせるように支援し、家族や地域から孤立することなく一人ひとりにあったケアを心がけている。事業所には足湯のコーナーや菜園、広い庭があり、地域住民と交流できる場となっている。医療との連携もできていて緊急時にも安心できる体制となっている。職員全体が事業所の質の向上を目指していて、常に入居者に寄り添ったケアを提供し、生活を共にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスには理念に基づいた春風会憲章を唱和し、各職員が理念に基づいた支援を共有し支援を行っている。又各ユニット入口に理念を掲げている。	法人の「仁慈絡歎」という理念をもとに、管理者、職員は常に利用者を思いやり、考えるケアを自然に取り入れ実践につなげている。また、1年ごとに理念に基づいた目標を掲げ、利用者にとってよりよいケアが提供できるように支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の溝掃除に参加しています。災害時の第2避難所として市役所に登録し、地域に貢献しています。施設設備の足湯コーナーも近隣の方に開放を行っています。	自治会とは、連絡や連携がとれている。5月には近隣の方々を招いたバーベキュー大会を毎年開催している。足湯の解放時は近隣の方からも気軽に介護相談もあり、地域とのコミュニケーションの場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽にお寄り頂けるよう玄関先や、自治会館にパンフレットを掲示させて頂いています。居宅介護支援事業も併設しており、事業所全体を持って相談をお受けしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組みや近況報告を行っています。又今後の取り組みや、イベント等をご相談し、実施に向け取り組んでいます。参加者はご家族、自治会役員・民生委員等の方々に参加して頂きご意見を頂戴しています。	運営推進会議は2か月に1回開催している。利用者やご家族、自治会長、民生委員の方々や地域包括支援センター職員の参加を得て意見を受けサービスの向上に活かしている。議事録は次回の会議に資料として提出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターより毎回運営推進会議に参加頂いています。市町村には、介護保険申請、事故報告等を行っています。貴志支所には、運営推進会議の案内をお持ちしている。	市町村担当者には事業所のヒヤリハットや事故報告について伝えたり、運営推進会議の報告や案内を届ける等、積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修、外部研修等を通して常に学びを深め又『身体拘束をしないケア』に取り組んでいる。玄関やユニットの入り口も無施錠にし、施設内は自由に移動できるようにしている。	身体拘束についてはすべての職員が研修等に参加し、正しい理解と学びを深めている。玄関やユニット入口を無施錠にすることで常に安全に配慮したケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様研修の機会を確保し常に職員が意識を持って不適切な言動をしない・させない・ことを大切に日々の業務に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員養成研修には毎年職員が参加しカンファレンスにおいて他の職員に共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご見学やご契約時等には、十分な説明をし、ご質問には、ご理解をして頂けるまで、丁寧な説明を心がけている。改定時には、説明とご理解頂き同意をえています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族からご意見を頂いたり、日頃の来訪時にご意見や、ご要望をお聞きした内容をカンファレンスにて職員間で共有している。	管理者や職員は、家族会の行事や、家族等が支払いのため来訪や利用者への面会時等に気軽に要望が聞けるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の本部会議に管理者が出席し、代表及び各管理者より運営や状況の報告会を受け問題点を話し合いを行う、事業所のカンファレンスにて職員に内容を報告している。	月に2回のカンファレンスには、ほぼ職員全員が出席し意見を出し合っている。代表者と職員が1対1で話す機会を持ち、意見を聞くと共に職員の士気を高めている。2か月に1回は職員同士で食事会を開催し、管理者と気軽に意見交換する場が持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ではあるが、代表と各職員の面談を実施している。全職員に無記名アンケートを実施し問題点や課題を把握し、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に参加できるような仕組みを整えている。社内においても、事例発表会や、介護技術研修、初任者研修等積極的に学ぶ機会を確保できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や、地域の勉強会、にも積極的に参加しています。公益法人日本認知症グループホーム協会に加盟し同業者との交流を確保しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居に至るまでの経過を考慮し、ご本人の想いに沿いながら少しでも早く安心して頂ける様に信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話を傾聴し、その想いにも出来る限りの対応が行えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との面接を繰り返し行い、なにが必要なのか、どのような支援が必要なのかを考え状況に応じた適切な支援が、行えるように努める		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活を共有すること、掃除、洗濯、調理等、の中で、一緒に行うことで、平等な信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご入居者のご様子をお伝えし、ご相談や願いをし、一緒に支援の内容や方法を検討しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者のご家族、ご友人、ご近所の方が訪れやすい環境や雰囲気を整えている ご家族と共に外出を頻繁に行われている。 デイサービスとの関わりも頻繁に行っている。	家族との外出やデイサービスでの友人との交流等、馴染みの関係の継続を大切に支援している。家族が遠方な方には管理者が付き添う等の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニット間も常に交流しご入居者同士が関わりを持てるように職員が配慮し、孤立しないように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された、ご家族からは、近況報告を頂いたり、お知り合いのご相談をお受けしたり、交流を続けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、その方の思いや、希望を把握することを大切にしている。情報を職員で共有し検討している。	生活歴を知り、本人の視点に立つことで思いや意向の把握に努めている。職員の気づきは連絡ノートに記入し、カンファレンスで意見を出し合うことで本人本位の暮らしができる支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、今までの生活習慣や、ご本人の意向を把握することに努め、アセスメントを深めることを大切に、職員間で、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートやアセスメントを活用し、ご本人の思いや、希望を把握することに努めている。職員で情報を共有し話し合い、想いを探ることを大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでご入居者のご様子を職員で共有しどのような支援が、適しているのかを検討し、ご家族、ご本人と出来るだけ相談しながら、作成し、又関係機関のご意見を頂きながら、作成や修正に努めている。	本人、家族の要望を介護計画に取り入れている。職員間での定期的な見直しと、状況に応じて医師や看護師の意見・助言も取り入れ、計画作成や修正を行い、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、日課表、申し送りノートを活用し情報を職員で共有している。問題点や気づきも共有することで、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ニーズに対応出来るよう努めている。面会時には、ゆったりと過ごして頂ける様にコーヒーやお茶、お菓子を提供するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の美容室、スーパーやコンビニでの買い物等近隣との関わりの中で、生活を楽しんで、頂けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、主治医の確認をさせて頂き、往診時には、職員が付き添い日頃の情報提供させて頂く 様子の変化には、24時間連絡可能となっている。	本人にとって適切な医療が受けられるように、かかりつけ医、事業所の協力医、内科医、認知症専門医と連携を取り、一人ひとりに合った支援を行っている。緊急時や夜間にも安心した医療が受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職や訪問看護との連携に努め、職員の気づきや本人の情報を適切に伝えることで、適切な医療を受けて頂けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族や病院関係者との連携に努め、退院後のケアについて助言を頂いている。 日頃から各病院の勉強会等に参加するなど、医療との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、ご本人、ご家族の終末期への意向を伺い、当グループホームでの可能な対応について説明し同意を得ている。必要に応じて、再確認し、主治医・訪問看護等医療職とのチーム作りに努めている。	重度化した場合は主治医の診断のもと、家族には頻繁に意向の確認を行っている。職員は終末期への支援を行うことで家族の思いも理解しようと努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成している。又カンファレンスにおいて医療について学びを深めている。緊急時の対応についても状況に応じた確認を常に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご入居者参加にて年2回避難訓練実施している。夜間を想定した訓練も実施。災害時には地域の拠点となるように発電機、井戸、備蓄品を整え自社にて災害対策衛生委員会を設置している。	入居者が安全に避難できるよう、年2回避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も行い、全職員が避難方法を身につけている。災害時には地域の住民を受け入れることができるように設備も整えている。	運営等に地域の民生委員や自治会長の協力が得られているため、災害対策として今後さらに近隣住民の協力が得られるような取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常にご入居者の尊厳を守り、プライバシーに配慮した支援を心がけている。	排泄時等の声掛けは他の人に分からないように目立たずさりげない対応をしている。入浴時は基本同性介助で行う等、入居者の人格やプライバシーを尊重した対応を心がけている。個人情報も鍵のかかる場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の思いや意向を引き出せるよう傾聴することを大切にしています。又その思いに沿えるよう支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や、ご気分に沿った柔軟な対応を心掛けています。 ご本人のペースで過ごして頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にご近所の美容室から、来て頂いています。又ご家族の支援を受け馴染みの美容室に行かれる方もいます。洋服は、出来るだけご自分で選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の力が発揮できるよう、職員と一緒に食器洗いや、盛り付け等無理なく行って頂ける様に支援をしています。職員も一緒にお食事を頂くことによってより楽しめる支援をしています。	入居者と一緒にメニューを考えたり、調理を一緒にしたりして楽しく食事ができることを大切にしている。おやつ作りや庭で採れた季節の野菜を職員と一緒に食べることを楽しみ、家族が来られた時には一緒に食事を楽しんでいただける支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量、水分量、摂取状況を記入しする。個人の状況や状態にて夜間の水分補給も積極的に行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の嚥下体操、口腔機能低下が見受けられる方には、歯科医指導にて個別の食前口腔ケア実施しています。毎食後の口腔ケアも実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意のない方であっても、出来るだけ、排泄パターンを把握し、トイレにて排泄して頂ける様に支援している。又間隔をみて、声掛けを行っています。	自然排泄を心がけ、本人の訴えや表情等で気持ちよくトイレで排泄ができる支援を行っている。夜間も職員の介助でトイレで排泄ができるように自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用しながら、水分補給、乳製品の定期的な摂取を行っています。 主治医指示にてお薬でコントロールする方もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の時間はありますが、外出や、面会には時間変更し対応しています。入浴を嫌がられたりされる時には、時間変更し、気分よく入浴して頂ける様に支援しています。	基本の時間以外にも本人の希望や体調に合わせて入浴の支援をしている。入浴拒否の人には曜日や時間を変更する等、入浴を楽しむことができるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に注意し、居室の環境を整えています。又ご様子に応じた休息をとって頂ける様に支援しています。寝具のチェックシートを使い、清潔保持しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的、用法、用量等個別に記入し、副作用についても、共に記入することで、職員が把握できるようにしている。服薬チェックシートを活用し何重にも確認する仕組みを構っている。症状や変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを大切に生活歴の把握に努めています。又新しい発見も大切に支援を行っています。晩酌・お気に入りのパンや、好みのお漬物等ご家族の支援を受けられています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーに買い物や、公園にお散歩 又ドライブに行かれる等気候に良い時期には外出を楽しまれています。又ご家族の支援を受け、外食や馴染みの場所に出掛けられています。	日常的には近所のコンビニへの買い物やお地蔵さんへのお参り等の支援を行っている。家族と外出する機会が多い入居者もいたり、レクリエーションでは花見やドライブ等の外出支援も行い、行けない人にも散歩等で外気にふれることができるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時にはご自分で支払いをされる方もいます。又ご自分で、お金を持たれることで、安心感を得ている方も数名いらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からのお電話を取り次いだり、かけられることの支援も行います。ご自身の携帯電話を使われる方もいます。年賀状やお手紙が届く方もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングには、季節の飾りや、手作りのカレンダーを掲げたり、状況によってソファやテーブルの配置換えを行い居心地の良い空間づくりに工夫をしています。	天窓からの日差しが共有部分を明るく照らし、風通し良くしている。入居者の好みで演歌等の音楽を流している。ソファは状況に応じて向きを変え、アロマをたく等居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に椅子を置いたり、ローカにソファを配置したりと、建物全てが居心地の良い空間となるよう職員で相談し検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持って来られていたり、ご家族の想いで、選ばれた家具を使いやすく配置したり、ご家族の写真を飾っていたりご本人にとって居心地の良い空間となるようご家族と一緒に工夫されています、又仏壇をお持ちの方もいらっしゃいます。	居室には使い慣れた家具や家族の写真、仏壇等を配置する等居心地よく過ごせるよう配慮しており、馴染みの生活が継続できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者の方々の状態や状況の把握をすることでその方に適した支援を行っている。出来るだけ自立した、生活が安全に送れるように環境を整えるよう努めている。		